

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

## 「呼吸器感染症に関するガイドライン」成人気道感染症診療の基本的考え方

日本呼吸器学会呼吸器感染症に関するガイドライン作成委員会（委員長：松島敏春 川崎医科大学呼吸器内科）

日本呼吸器学会、2003年6月20日発行

### ■1 葛根湯、麻黄湯

疾患：

かぜ症候群

引用など：

- 1) 磯部秀之. 漢方製剤の適正使用－漢方治療の現代医学的アプローチ－かぜ症候群. *薬局* 1997; 48: 1074-8. [MOL](#), [MOL-Lib](#)
- 2) 川名明彦, 工藤宏一郎. かぜ症候群の対症療法. *薬局* 1997; 48: 1951-7. [MOL](#), [MOL-Lib](#)

有効性に関する記載ないしその要約：

『漢方薬は日常臨床でも葛根湯や麻黄湯などが“かぜ症候群”によく用いられている。漢方薬は通常病態分類による漢方診断によって、総合的に治療薬を選別して行われているもので、ある程度の経験と知識が必要である。漢方薬を用いる時には、西洋医療での薬物と同様に副作用等にも注意すべきである。』